

あいであ & アイデア

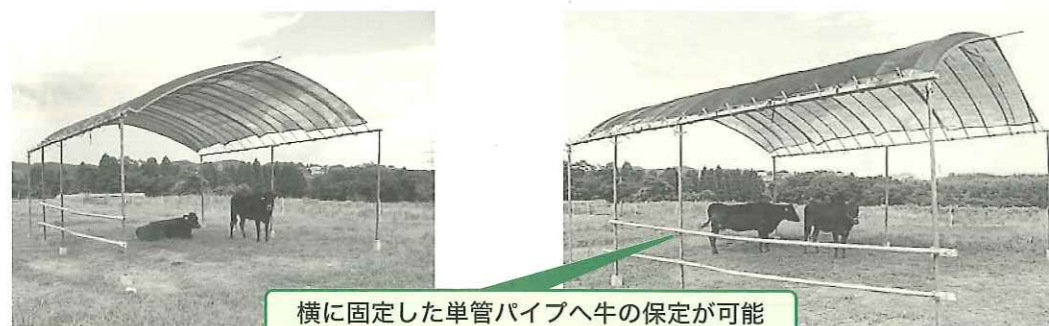
肉用牛の簡易放牧技術—その3— (日陰施設の設置および電気柵への馴致)

(独)家畜改良センター 渡邊 一博

日陰施設について!

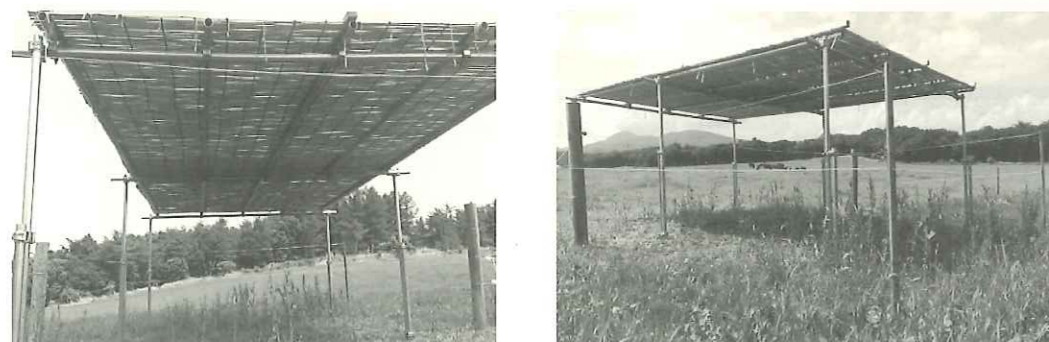
近年、耕作放棄地に放牧されることの多い黒毛和種は、比較的暑さに強い品種ですが、夏季の高温時期は暑熱対策として日陰ができるようにするとストレス低減に役立ちます。放牧地に隣接して樹林地がある場合は、樹林地を柵で囲い、放牧地の一部として取り込むことで、有効な日陰を確保することが可能です。

一方、水田や畑等の耕作放棄地で樹木が少ない場合は、廃材や立木を活用しシートを被せる等工夫して低コストな庇陰施設を設置することをお勧めします。



横に固定した単管パイプへの牛の保定が可能

パイプハウス廃材・単管パイプ及び寒冷紗を利用した日陰施設。
(ブルーシートは日差しを通すので注意が必要です。)



単管パイプ、クランプ及び角材、よしずを利用した日陰施設。(全てホームセンターで調達可能)
※単管パイプやよしずはいろいろなサイズがあり、この日陰施設は比較的簡単に設置が可能です。

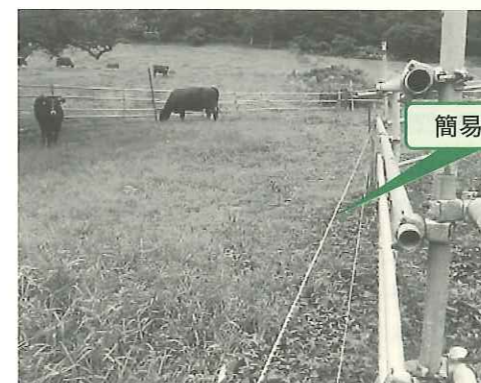
電気柵への馴致!!

その1でご紹介したように、近年、耕作放棄地を活用した放牧では低コストで設置・撤去の簡単な電気柵の利用が増えております。

一方、電気柵は予め放牧牛が感電し電柵線が危険なものであると学習し、近づかないようにしておかないと脱柵の危険性が高くなります。特に、はじめて電柵線に感電した牛は、興奮し電柵線に突進し脱柵することもあります。このため、放牧開始前の電気柵への馴致は脱柵の危険を防止するために非常に重要です。

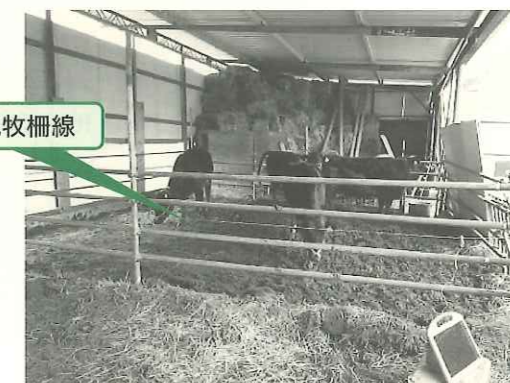
馴致の方法は、鼻面を強制的に電柵線にさわらせ覚えさせる方法と牛舎内やパドックに電柵線を張って牛自身が自然に電柵線にふれ覚える方法があります。強制的に覚えさせる方法は、短時間で済みますが人間に対する恐怖心を植え付けることにもなるので、自然に覚える方法をお勧めします。

なお、自然に覚える方法での電気柵馴致は、1週間～10日間程度で充分ですが、確認のために、電気柵の先に配合飼料を置き、配合飼料がなくならなかったら馴致完了と判断します。



簡易電気柵線

パドックの内側に電気柵を設置し馴致



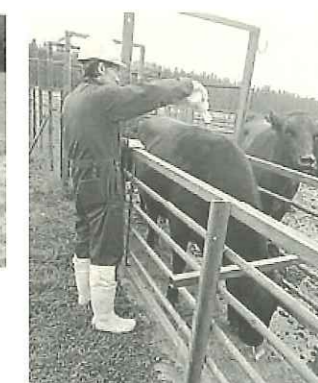
牛舎内に電気柵を設置し馴致

その他!!!

その他、放牧地へのアブトラップの設置や牛体への忌避剤の塗布は、アブや吸血昆虫等からの衛生対策に有効です。



アブトラップの設置



牛体へ忌避剤の塗布

なお、当センターホームページにおいて「未利用地放牧に関する技術マニュアル」を掲載しておりますので、お気軽にご覧下さい。

<http://www.nlbc.go.jp/jisshotenji/index.html>

(わたなべ かずひろ：(独)家畜改良センター企画調整部管理課)

あいであ & アイデア